

## おわりに

第一章で記述したように本年は戊年、戊年の戊の字の音読みは「シュツ」「ジュツ」です。「シュツ」↓「詞誘通」、「ジュツ」↓「字誘通」、ですから「光透波へ誘われて通る」「字に誘われて通る」このような意味を持つ戊の年・平成三十年に、本書が世に出ることは偏に天のお導きによるものと感慨無量の思いがいたします。

さて、お読みいただき理解を深められたと思いますが、世界人類が共存調和するそのキーワードが日本語であること、そして日本語は世界の言語の中で最も天のご意図・真理を読み解くことが出来る素晴らしい言葉であることがお分かりいただけたと思います。

ところが今日、この素晴らしい日本語文化が大きな危機に直面しています。

それは無分別に外来語を取り入れて意味不明なカタカナ語が氾濫し、軽薄な流行語や乱れた日本語が年を重ねるたびに蔓延していることです。もつと言えば日本語より横文字の方が格好良い、英語を話す人の方が優れ、話せない人はコンプレックスを抱くという風潮が世に漲みなぎっております。日本語の将来に暗雲が漂もよほってきているのです。

さらに2018年から始まる小学校3年生からの英語教育の義務化により、多くの世の親たちが日本語を充分に習得していない幼児期から英語教育に熱をあげ始めていることです。この風潮をバイリンガルなどと美辞麗句が使われ肯定的に受け止められています。母国語の基礎が整っていない幼児期に外国語を教え込むということは、言語的な無国籍人を生み出す危惧があるのです。

日本人の日本人たる所以の根幹は日本語にあるのです。日本語が崩れるということは和の心・日本人の精神の崩壊に繋がってゆくことになります。母音中心の和の波動に満ちた日本語を使うことによって、人と人、人と自然、人と宇宙が共振共鳴するのですが、その道を頓挫とんざさせてしまうことになりかねない風

潮に筆者は限りない虞おそれを感じている次第です。

逆睹ぎやくとしがたい世界人類の混乱危機、その救いの道は光の言葉の波動を広げる以外に残されていません。そしてそのベースとなる言語が古来から言霊の幸はふ国と言われてきている日本の国の言葉なのです。それ故に私達は日本語の持つ世界人類的な役割に目覚め、日本語の醸し出す調和の波動を広く大きく押し進めてゆくことが求められているのです。

言葉の乱れが波動の乱れ、波動の乱れが心の乱れに、心の乱れが世の乱れに繋がってゆくのですから、今日の狂い穢けがされている言葉文化を正すべく、光の言葉のエネルギーを発信し、その波紋を高く大きく広めてゆきたいものです。言霊の民の一員として読者諸兄とともに、天のご意図・真理に通じる日本語の素晴らしさをお伝えし、光の言葉の波動が一段と広がることを願う次第です。

振り返りますと本書は多くの方々のご指導とお力添えを頂いて世に出すことが出来ました。

光透波理論を懇切に教えて下さった小田野先生の直弟子の磯部賢一先生、惜しむことなく字割理論をご教授下さった直弟子の堀尾泉實先生、お二方に先ず感謝申し上げます。

そして真理の輝きに満ちた素晴らしい啓示・『神から人へ』の転載をお許しくださいました一二三朋子先生と、珠玉のような救世の靈言「三六九神示」を毎月お送りくださいます小長谷修聖先生のご厚意に深く感謝申し上げます。

さらに、不思議な導きにより昨秋より医学博士の長堀優先生とご縁を結ぶことが出来ましたことにより、ご多忙中にも拘わらず先生より身に余る「推薦のことば」を寄稿して頂きました。また長年来の光透波の学びの友である理学博士の森裕平先生からも「推薦のことば」を頂戴することが出来ました。両先生に深く御礼申し上げます。

加えてこの本を発行するにあたり長堀先生のご紹介により、「でくのぼう出版」という素晴らしい出版社にご縁を結ぶことが出来たことです。宮澤賢治の

純朴かつ高潔なる精神を理念とされる「でくのぼう出版」の熊谷えり子代表の「ご英断を賜りまして、拙稿が時代に先駆けた内容で少々冒険になるにも拘わらず、出版化して下さることになりましたことは幸甚の至りであります。深く御礼申し上げさせていただきます。

このように諸先生のお力添えとご指導により本書が世に出ることになったのも、その奥には不思議な目に見えない宇宙のご意図があつたればこそと理解しております。ここに深甚なる感謝の意を捧げまして、「おわりのことば」とさせて頂きます。

平成三十年八月 十一日

宿谷直晃